



令和6年度羽田中学校だより

# 天空の橋

令和6年12月23日

目指す生徒像…

Heart

Never Give Up

Do Our Best

大田区立羽田中学校

## 「校則が変えられる学校」への大きな一歩 その2

2学期が終わろうとしています。長い2学期、いろいろな行事・活動が行われました。夏休み明け直後の1年生の移動教室から始まり、9月には区陸があり、10月には2年生の社会科見学、そして素敵な歌声を聞くことができた文化祭がありました。11月には、みんなで踊り続けたヒップホップダンスの講習会が楽しそうに強く印象に残っています。5組では、9月の連合運動会・11月の球技大会と大きな行事が二つもあり、さらに東糀谷小のマラソン大会の伴走をするなど新しい試みもありました。羽田中の生徒の素晴らしいところは、それぞれの行事に一生懸命取り組むところです。3年生の面接練習をしていると、“中学校生活の印象に残った思い出”として、自分から取り組んだ活動をあげる人がほとんどです。取り組んだ活動は、決して楽しいことだけでなく、困難があったことも話してくれます。その困難を乗り越えるだけの熱意が“学び”につながっていることも面談からはよくわかります。きっと、これからの生活に生きていくのだろうとうれしく思っています。

さて、2学期羽田中にとって大きい出来事は、新旧の生徒会役員を中心に取り組んでくれた生徒総会です。11月の「天空の橋」にも書きましたが「校則を変えられる学校」の一歩としてたいへん重要なものでした。その後、役員会の提案にあった「ステップアップボード」の取り組みが実際に（現在はお試し期間ですが）行われています。11月号には、「自分たちで安定した社会をつくれる」ことが校則を変えられることにつながる」という趣旨、つまり生徒総会の意義を書きました。その続きとして、今回は「校則」特に「服装」「髪型」等がなぜ決められているのかについて記述します。その意味がわかれば、「服装」「髪型」等の規則を変えるためにどうすればよいのかも見えてきます。

決まった服装を着る職業はいろいろあります。警察官・駅員・ファストフードショップの店員・スポーツ選手・お坊さん……。それぞれの職業でなぜ決まった服装を着るかの理由があります。駅員や警察官などで一番大きな理由は、その人が「駅員」「警察官」等であることが他の人から見てもわかるようにしていることでしょう。誰が「駅員」かわからなければ、行き先を誰に尋ねていいかわかりません。スポーツでは誰が味方で誰が相手かが一目でわかる必要があります。でも、それはふつうの生活をしているときの中学生には当てはまらないでしょう。学校の中で、誰が生徒で、誰が先生かは、よほどのことがなければわかります。もし必要ならば、先生の方がユニフォームを着ればいいだけのことです。実際、先生の方がユニフォームを着ている塾もありますよね。それからその仕事の活動に適した服装という意味もあります。スポーツ選手のユニフォームは、そのスポーツに適したものであるという意味も当然あります。中学生に制服を着せているのは、たしかに活動に適していることやこの学校の生徒か分かるという理由があります。移動教室などでは、学校指定のジャージを着ているとどこに自分の学校の生徒がいるか一目で分かり、行動にも適した服装になります。ただ、小学校は私服でよいことを考えると、それが一番大きな理由だとは考えられません。安全への配慮ならば、小学校でこそユニフォームの方がよいはずだからです。“仲間意識を高めるため”という理由も考えられます。スポーツにおけるユニフォームや、軍隊の軍服などはその意味も大きいと思います。また、高校などではクラスTシャツをつくったりすることはよくあります。趣味が同じグループで、同じよ

うな服装をしていることもよくあることです。中学校における制服もその意味は少しだけあるかもしれませんが。ただ、仲間意識を高めるために同じ服装にするのは、ほとんどの場合、自分たちからしています。強制的に同じ服装をしたからといって仲間意識が高まることはあまりないでしょう。もし、その効果があるならば、やはり小学校から制服にしてもおかしくないはずですが、そうはなっていません。では、中学校で制服なのはなぜでしょうか。小学校ではなぜ制服でないのでしょうか。高校ではほとんどが制服なのに、大学では私服でOKなのはなぜでしょうか。先ほどあげた、「警察官・駅員・ファストフードショップの店員・スポーツ選手・お坊さん」の中で、中学生や高校生に制服を着せる理由と、近いものが一つだけあります。わかるでしょうか。そう、お坊さんです。よく考えてみると、仏教でいうお坊さん、神道でいう神主さん、キリスト教でいう神父さん・牧師さんは、みんな決められた服装を着ています。その他の宗教でもお坊さんにあたる人は、みな決められた服装をします。そして、宗教と学校に共通していることは、将来に向けて修行（トレーニング）をする場だということです。イスラム教では、お坊さんにあたる祈りに専念する人はおらず、イスラム教の信者全てが修行者という位置づけですが、逆にイスラム教信者すべてがある程度の服装をしなければいけなくなっています。修行はつらいものです。つい、気が緩んで修行がおろそかになりがちです。そこで、服装を強制することで「修行をする気持ちをつくる」「修行をする場をつくる」ことをしているのです。

学校で学習することは、残念ながら全てがすぐに役立つものではありません。将来のために学習する、たとえつまらなくても将来を見越してトレーニングを積む必要があるものです。ところが、思春期、青春真っ盛りの中高生はつい勉強からは逃げたくなります。勉強よりも、自分にとっての楽しいことをしたくなります。そこで、将来に向けた「修行をする場をつくる」「修行をする気持ちをつくる」「他人のことを意識して行動する」ためのツールとして使われているのが服装や髪型の規制なのです。これに効果があることは、世界中の宗教が取り入れていることから明白だと思います。大学生になり、制服などのツールを使わなくても自分で学習（修行）に励めるようになると、服装に縛られなくなるのは、宗教でも高僧（修行をつんだ偉いお坊さん）になると実は髪を伸ばしていたりして、儀式以外は服装などに縛られなくなるのと同じことです。高校でも、学力が高くないと入れない高校ほど、服装などが自由だったりします。制服などのツールを使わなくても修行に励める生徒が多いからです。

さて、制服や髪型の校則は、修行、つまり将来に向けて学習する・人に迷惑をかけないよう気遣いながら生活する・自分を高めることができるようにするための道具（ツール）として使われているという話を書きました。でも、どうでしょうか。「そんな道具（ツール）なんかなくても、自分は自分を高めるために修行に向かえる」という方がよくありませんか？ 強制されなくても、学校生活の意味を自分で踏まえて、自分で学習に向かえる方がかっこよくありませんか。やらなければならないと判断したなら強制されないで自分でできる方がよくありませんか？私は、「制服や髪型等の道具（ツール）を使って修行をするようにする」のは正直「古い」と思っています。民主的な現代の中学校では「自分で自覚して修行に向かう」ようになるべきだと思っています。しかし、残念ながら現代の中学生も「自分で自覚して修行に向かう」ようにはなっていません。むしろ、ある程度強制されなければ「修行に向かう」ようにはならない状態だと思います。だとすると、その修行に向かうツールをなくしてしまうと、今よりもっと「修行に向かわない」ようになってしまう可能性があります。授業中に私語をする、立ち歩きをする、家庭学習をしない……。

以上のことから「校則を変えるための条件」が導き出されます。

ツールとして使われている校則がなくなっても、本質的な修行（学習、学校での活動）がきちんとできること。少なくとも、現在と同じ程度で、現在より、低くはならないこと。その保証（これなら大丈夫だ）が見せられること。

結論は、言い方は替わっても、前回とほぼ同じです。「安定した社会を自分たちでつくれる」それが、校則を変えられる条件です。それは「自由だけど、自分たちが成長できる学校」となっていくはず。そんな学校をつくってみませんか。